

甲斐市立竜王北小学校 自己評価書

令和3年2月10日(水)

校長 廣瀬 昇

記述者 教頭 増坪 広夫

学校教育目標 「創造性豊かな心身ともにたくましい子どもの育成」

- ① 自ら学び深く考える子ども
- ② 心美しい思いやりのある子ども
- ③ 明るく健康でたくましい子ども

学校経営方針

- ・全ての教職員の力を集結する中で、職員組織の協力・支援体制を確立し、活力ある学校の創造と教育目標の具現化に努める。
- ・教育目標の達成を目指した創意ある教育課程の編成・実施・評価に努める。
- ・確かな学力の向上を図るための学習指導の改善と工夫に努める。
- ・教職員と児童、児童相互のふれあいを深め、豊かな心を育むとともに、きめ細かな生徒指導に努める。
- ・教師として、常に研究と研修に努め、校内研究の充実を図るとともに、専門職としての資質能力の向上に努める。
- ・地域人材を活用した道德教育の推進に努める。
- ・児童自らが進んで健康な生活を送ることができる実践的態度の育成に努める。
- ・教職員間の支援体制の確立、家庭や関係機関との連携を通して、特別支援教育の充実に努める。
- ・安全な学校生活が送れるよう危機管理体制を確立する中で、教職員の危機管理意識の高揚に努める。
- ・保幼・小・中や家庭・地域・関係機関との連携を図るとともに、こまめな情報発信を通して、地域に開かれた学校づくりに努める。
- ・外国語(英語)活動において、ALTと連携を図る中で国際理解教育の推進に努める。
- ・教育環境の整備・充実を図り、教育活動における効果的な活用と環境教育の推進に努める。
- ・横断的教育活動を通して、ボランティア活動等福祉教育の推進に努める。
- ・小・中学校9年間を見通した効果的な指導を図るため、小中連携を図る。

1 全体評価

年度始めの「学校経営の基本方針」に基づき、本年度の指導重点項目を設定し、それを具現化する様々な取組を行ってきた。

(1) 学習指導の充実と向上に努める。【知育】

「学習、生活規律の確立」「時間の遵守」「ユニバーサルデザインを活用したわかる授業の実践」「宿題と家庭学習の推進」「言語活動の充実」「体験的、横断的学習の充実」「個に応じたきめ細かな指導(TT指導・補充学習・取り出し指導等)」「ICT機器(電子黒板、デジタル教科書)の活用」「モジュールの時間(外国語・国語等)」

(2) 心の教育の充実に努める。【徳育】

「本物体験(地域の素材や人材、外部の専門家、出前授業の活用)」「協働による清掃等教育活動の推進」「声かけ、あいさつ運動」「早寝、早起き、朝ご飯の推進」「各行事の充実」「縦割り活動の推進」「学校、学年、学級だより、HIPの公開や学校だよりの配布等による情報発信」

(3) 健康・安全教育と体力の向上に努める。【体育】

「1校1実践の体力づくりの推進」「体育広場の充実」「ラジオ体操」「登下校時の安全対策と指導」「健康三原則の推進(食事・睡眠・運動)」「保健、給食だよりによる情報発信」「安心メールを活用した情報発信」

その他、起案方式の継続、教育課程の編成と実施、報告・連絡・相談（さらには反省と改善）の徹底、スクールカウンセラーや県教育センター、スクールソーシャルワーカー、医療機関、サポートルームたんぼぼ、市子育て支援課、県中央児童相談所等関係機関との連携強化等様々な教育活動を行ってきた。さらに今年度は、小中学校体育連盟から研究指定校を受けた1年目として、来年度の公開研究会に向けて研究を深めている。また、特に高学年を中心に県教委の進める「学びのサイクル改善事業」や「新聞ワークブック」を利用した表現力を高める学習にも取り組んできた。

廣瀬校長の強いリーダーシップのもと、教育活動についてのビジョン及び成果と課題を明確にすることによって、全職員の共通理解が図られ、指導の方向性を確認することができた。個人がしっかりとした問題意識を持ち、全体で課題を明確化し取り組んでいくことにより、いじめや不登校あるいは学校不適応など、個に応じたきめ細かな指導を充実させ、児童一人ひとりを大切にしたい教育活動に努めることができた。また、今年度は新型コロナウイルス感染症予防に努めるとともに、学校行事を精選、縮小することになってしまったが、運動会等の学校行事への取組を通して、学級・学年集団の団結力を強め、それぞれの発達段階に応じて、集団生活を営む力を育てることができた。「あいさつ運動」については、学校も家庭も継続して取り組んでいるが、「心のこもったあいさつ」100%をめざしてさらなる取組を推進したい。また、児童の学力を伸ばすための教科指導、学校行事への取組、日々の生徒指導、家庭や地域との連携等に傾注してきたが、授業実践における評価規準や評価方法の明確化、情報の管理、いじめ他の問題行動の早期発見と対応などに対しては課題も見られ、教職員の資質向上と意識改革が望まれる。また、教職員の多忙化が社会的に取り上げられるようになってきている中、教職員自身に「余裕」や「ゆとり」をもたらすためにも、協働体制をさらに充実させたり、時間を効率的・効果的に活用したりする様々な工夫を試みていく必要がある。

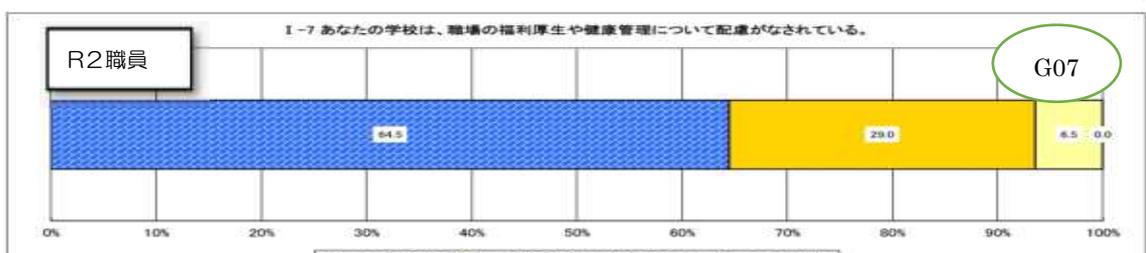
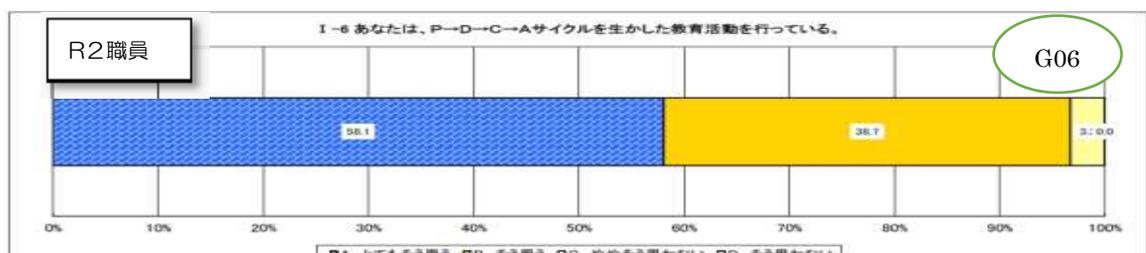
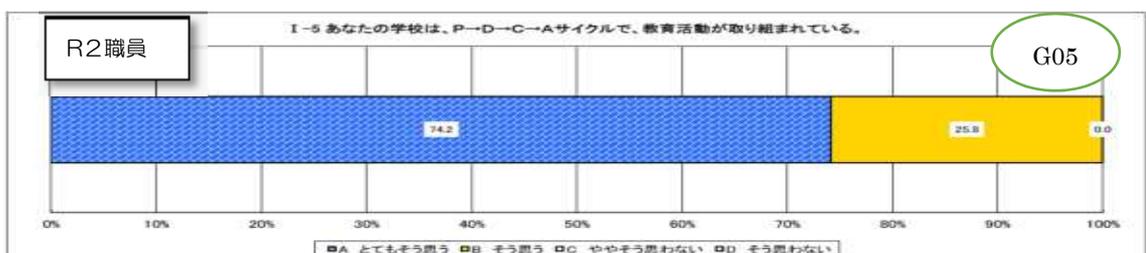
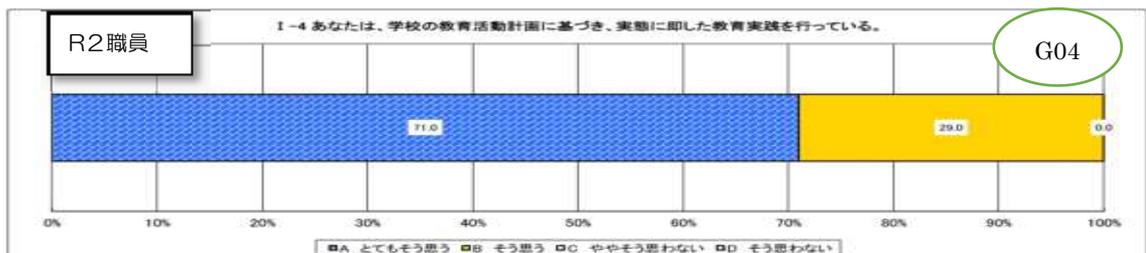
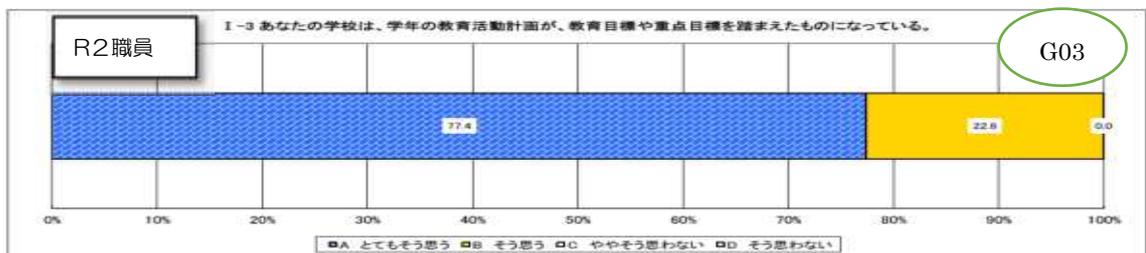
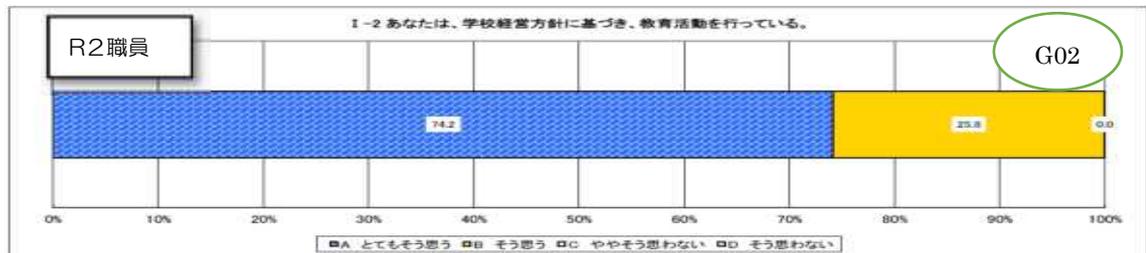
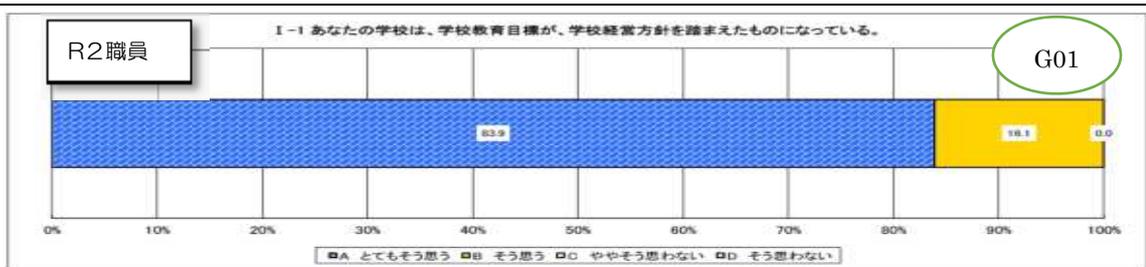
全般的に教職員・保護者・児童のアンケート結果は、どの項目も肯定的な評価結果であった。このことから、学校教育を全体的な視点でみた時、本校の教育が充実した中で行われていると言える。学校が、多くの子どもたちにとって楽しい居場所となっていることから、学校生活の中にそれぞれの力を発揮でき活躍できる場が確保されていると考えられる。今後とも学習規律や、話を聞く態度については気を緩めず指導していきたい。また、対話的で深い学びによる質の高い教育を目指すとともに、つまずきのある児童への効果的な手だて・個々の児童を伸ばすための指導を工夫し、確かな学力の習得に努めたい。また、これから整備の進むICT機器を積極的に活用し、これまで行ってきた教育活動を推進・発展させると共に、さらに個に応じたきめ細かな指導に配慮することが大切だと考える。

肯定率が伸びている内容については、更なる向上を目指し、肯定率が低下した項目については、状況を精査し自己改革を図りたい。学校評議員や学校関係者評価委員会、また、保護者や地域の方々からのご意見、ご指導をいただく中で、課題解決に向けた具体策を講じるとともに、信頼される開かれた学校づくりに努めていくことが重要であると考えている。

2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）

I 学校教育目標に関して・学校経営について

達成状況	<p>今回の自己評価においては、①「学校教育目標が、学校経営方針を踏まえたものになっている」②「あなたは学校経営方針に基づき、教育活動を行っている」③「学年の教育計画が、教育目標や重点目標を踏まえたものになっている」④「教育活動計画に基づき実態に即した実践を行っている」、⑤「あなたの学校はPDCAサイクルで教育活動が取り組まれている。」のAB肯定率が100%であった。また⑥「あなたは、PDCAサイクルを生かした教育活動を行っている」⑦「職場の福利厚生や健康管理について配慮されている」も93%以上と高い数値であったことから、学校教育目標、学校経営方針、本年度の指導重点が全教職員に浸透し、児童の実態にあった教育実践が学校全体としてなされていることを表している。</p> <p>気になる点では、⑥のA肯定率が60%を下回っていることから、「計画・実践・反省・改善」の考え方を再度確認し、改善していく姿勢を持つ必要性を感じる。</p>
------	---



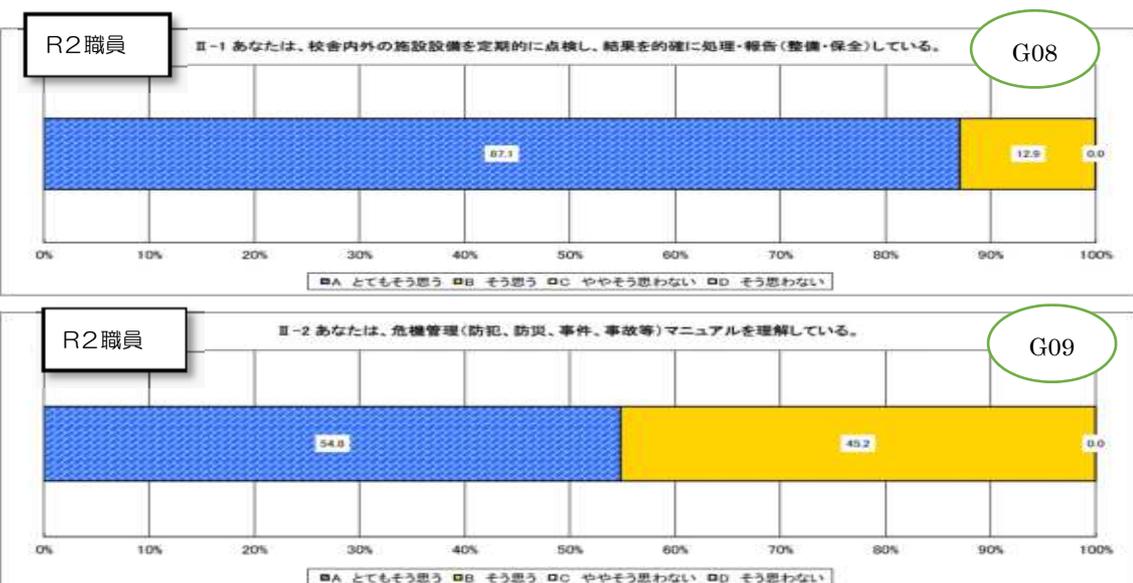
改善策

- ・⑥⑦以外の項目すべてでA B肯定率が 100%になっていることは評価できる。今後もさらに、校長の強いリーダーシップのもとで学校教育目標達成のため、一人ひとりが学校教育目標・学校経営方針・指導重点の認識や理解を深め、内容的関わりを意識していきたい。そして、PDC Aサイクルを生かした教育活動を学校全体で取り組んでいき、「子ども達の幸せ」を目指した充実した教育活動の改善を今後とも図っていく。
- ・多忙感を少しでも低減していけるよう、日常の声かけ、協働体制づくり等により明るい職場づくりや、教職員の心や精神面の健康において、ストレスや疲労がたまらないようにメンタルヘルスの取組を今後行う。また、職員厚生部を中心に、職員の健康増進や親睦が図れる活動を実施し、心身ともに健康を維持できる職場環境に努めていく。

II 学校運営について

達成状況

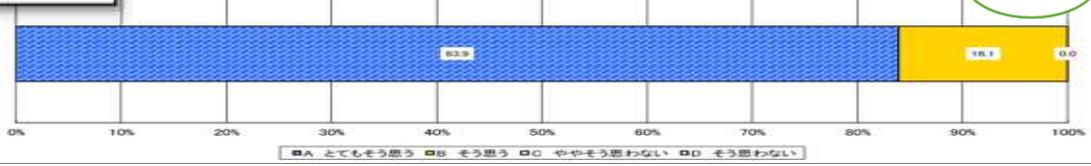
- ・学校運営の項目について、①「施設設備の定期的点検、結果を的確に処理・報告」②「危機管理マニュアルの理解」③「諸帳簿や文書、記憶媒体の適切な管理・活用」⑥「相互理解や信頼関係を深め、教育活動にあたる」⑦職務上の「報告、連絡、相談、確認」の項目のA B肯定率が100%、④「校務分掌の機能」⑤「職員会議への積極的関わり」⑧「校内研究へ主体的な関わり」の項目のA B肯定率が約93%以上となっており、全般的に高い肯定率となっている。
- ・①「施設設備の定期的点検、結果を的確に処理・報告」③「諸帳簿や文書、記憶媒体の適切な管理・活用」⑥「相互理解や信頼関係を深め、教育活動にあたる」⑦職務上の「報告、連絡、相談、確認」については、A肯定率がどれも80%以上で安全管理や情報管理の重要性が定着してきている。しかし、Bの評価があることを課題としてさらなる徹底を図りたい。
- ・安全管理に関しては、A肯定率が昨年に比べ12.9%上昇した。感染症予防を徹底していることなどから職員の安全に対する認識が高くなっていることがうかがえる。
- ・校内研究会への関わり方に対するA肯定率が昨年に比べて50%を下回った。今年度は小中学校体育連盟より研究指定校を受けたが、コロナ禍における臨時休校等で研究のスタートが遅れたこともあり、今後はより積極的な校内研究会への関わり方が求められる。
- ・今年度から導入された校務支援システムの活用については、唯一A B肯定率が80%を下回った。導入初年度ということで操作に慣れていない職員が多いことがうかがえる。今後は研修等で活用方法の周知を図るとともに、校務処理の効率化を目指し多忙化改善へとつなげていきたい。



R2職員

II-3 あなたは、個人情報保護・情報セキュリティの観点から、諸表簿や文書、記憶媒体を適切に管理・活用している。

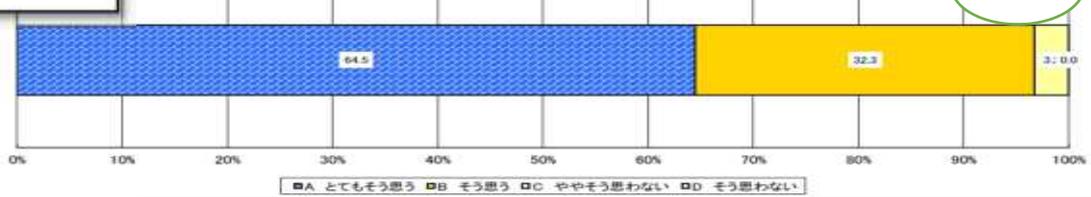
G10



R2職員

II-4 あなたの校務分掌は、学校運営上、機能している。

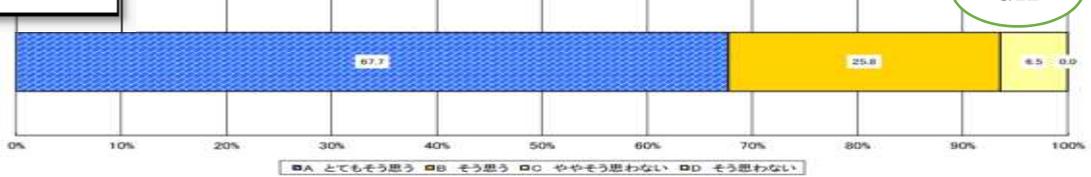
G11



R2職員

II-5 あなたは、職員会議に、積極的に関わっている。

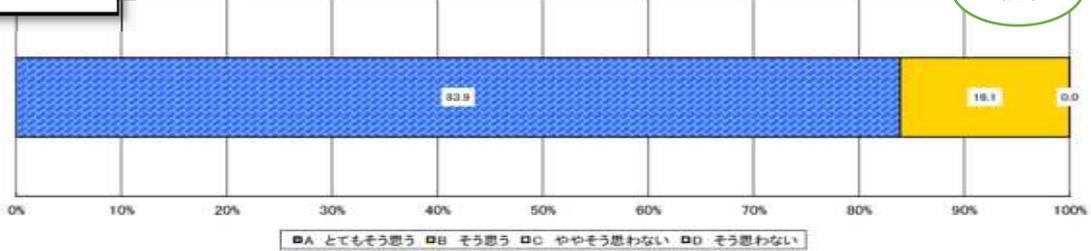
G12



R2職員

II-6 あなたは、他の教職員と相互理解や信頼関係を深めて、教育活動にあたっている。

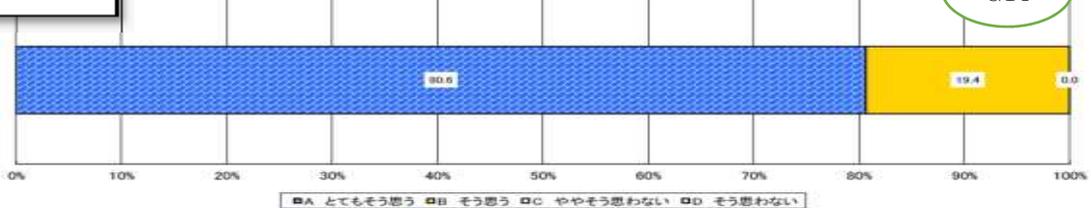
G13



R2職員

II-7 あなたは、職務上「報告、連絡、相談、確認」を行っている。

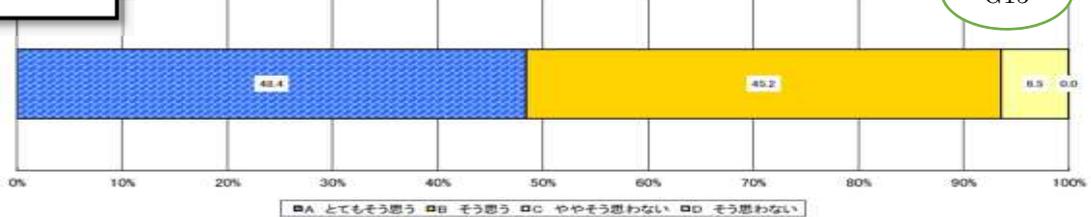
G14



R2職員

II-8 あなたは、校内研究(研修)に主体的に関わっている。

G15



R2職員

II-9 あなたは校務支援システムを十分活用できていますか。

G16



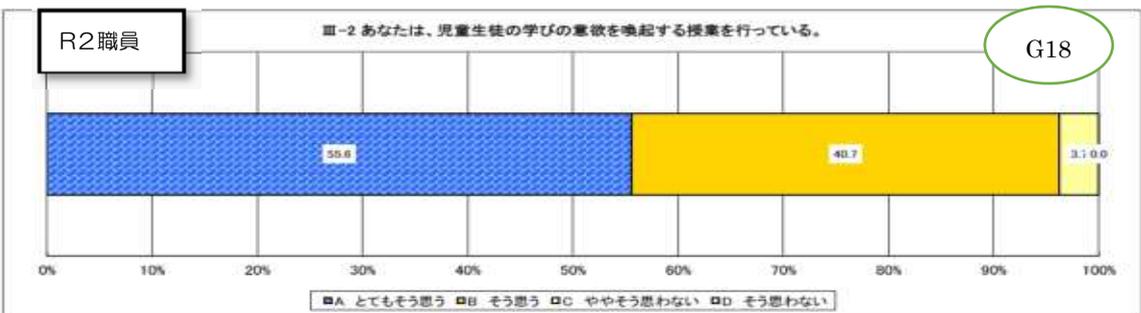
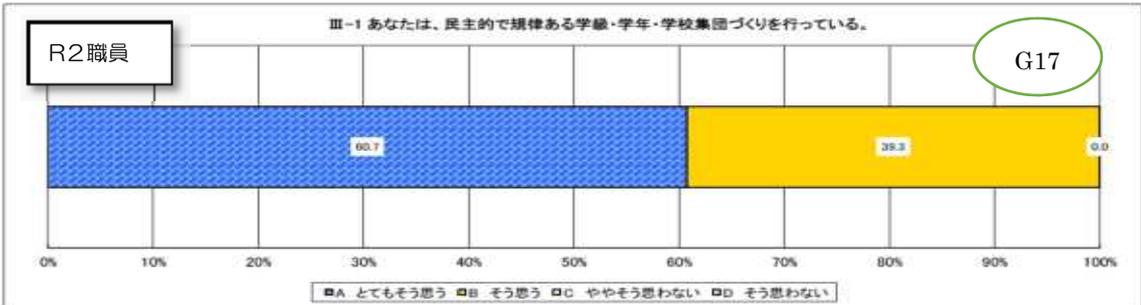
改善策

- ・危機管理マニュアルの理解については、A肯定率が55%と低かった。児童が自ら危険を予測し、回避できるための主体的に判断できる安全教育を充実させるためにも、より実践的な防災訓練を実施し、マニュアルの理解の充実を図っていく。
- ・校内研究に関しては、これまで進めてきたユニバーサルデザインを活用した理論と実践の研究を土台とし、さらに主体的な研究を行っていきたい。また、来年度は体育の研究指定校として先進的な教育実践を行うとともに、全職員が積極的に研究に参加するために、より実践的で普段の授業で役に立つ研究を進めていく。
- ・「報告・連絡・相談・確認」は、組織的運営を行っていく上でもっとも重要であることを、全職員で再認識し、授業や生活における生徒の情報や指導方針を共有できる場、コミュニケーションの場となるように、職員がワンチームで教育活動が行える雰囲気醸成を図る。
- ・多忙化改善のため、校務支援システムをより有効に活用し、校務分掌もできるだけ平均化するとともに、学年体制で補える部分、職員全体でバックアップできる内容等、状況に応じて複数職員で対応できるような協働体制をさらに強めていき、計画的・組織的に教育活動を行っていききたい。

Ⅲ 学習指導について

達成状況

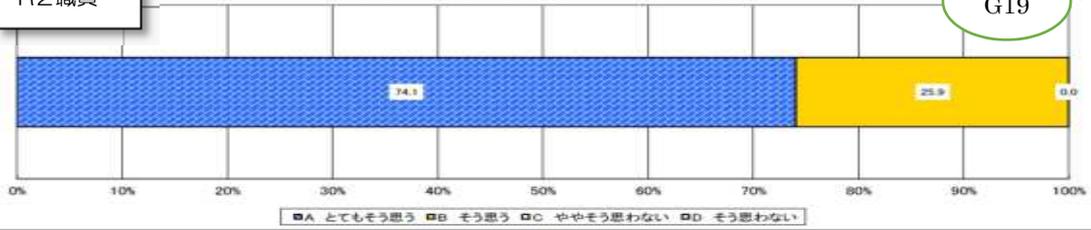
- ・職員の自己評価では、ABの肯定率が5項目で100%、残りの5項目が93%以上の高い数値であった。日々の教育活動を通して、質の高い教育を目指し、確かな学力を育てる授業実践に努めていることがうかがえる。また、学習指導の基盤は学級づくりであり、各学年・学級ともそれを踏まえている。
- ・全校児童の「先生はよく勉強を教えてくれる」「国語・算数の内容はわかりますか」については、AB肯定率は高く、保護者も「学校は熱心に授業に取り組んでいる」について肯定率が90%を超えている。しかし、「学校の授業は楽しくない」「授業がわからない」と感じている児童が1%未満でもいることや、保護者の学校の熱心さに対するA肯定率が20%を切る状況から、今後も「わかる授業」「楽しい授業づくり」に積極的に取り組み、教師の授業力向上を図っていく。
- ・「質問や意見が出てくる授業」について、AB肯定率は教師が100%であることにに対し、児童は昨年より6ポイント上昇し80%となり、児童の学習に対する意欲の向上が見られた。
- ・「家庭学習」については、教師・児童とも昨年とほぼ同じ傾向であった。ただ、コロナ禍における家庭での自粛生活が長かったためか、「やっていない」児童が若干増加し、コロナ禍における自粛生活の疲れなどの影響が見られた。



R2職員

Ⅲ-3 あなたは、基礎・基本の定着を図る授業を行っている。

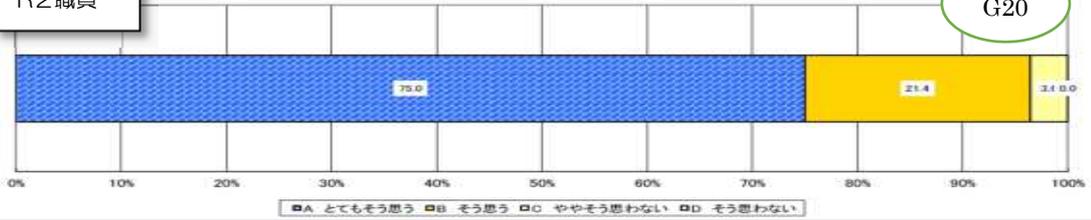
G19



R2職員

Ⅲ-4 あなたは、個に配慮した授業を行っている。

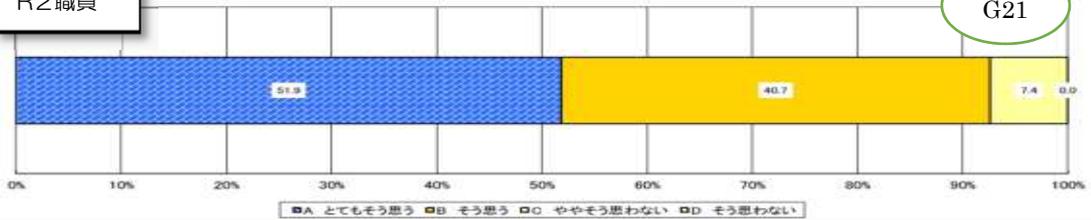
G20



R2職員

Ⅲ-5 あなたは、評価規準と評価方法を明確にした授業を行っている。

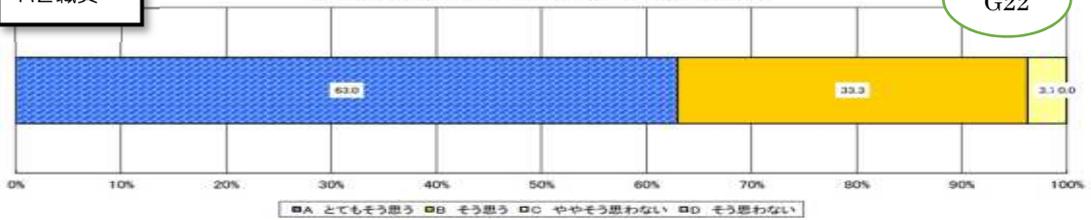
G21



R2職員

Ⅲ-6 あなたは、教材教具や備品等を活用した授業を行っている。

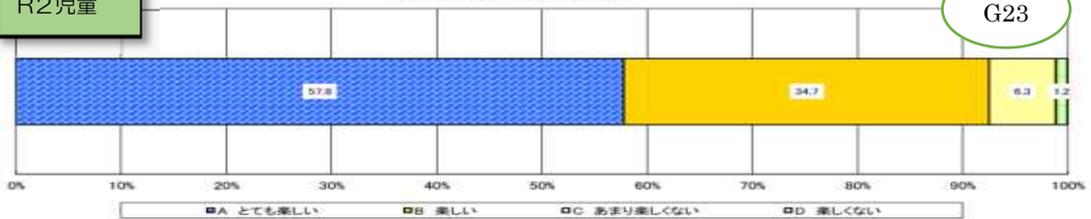
G22



R2児童

Q4学校の授業は楽しいですか。

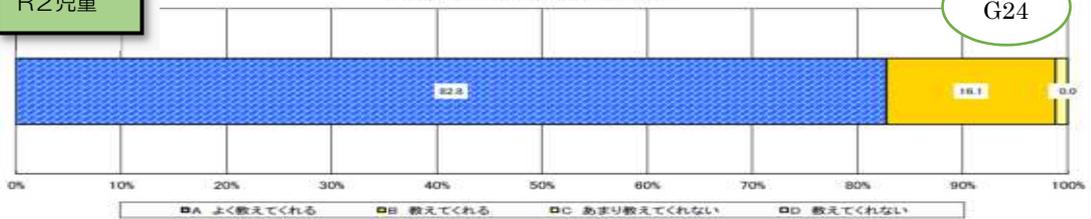
G23



R2児童

Q5先生はよく勉強を教えてくださいますか。

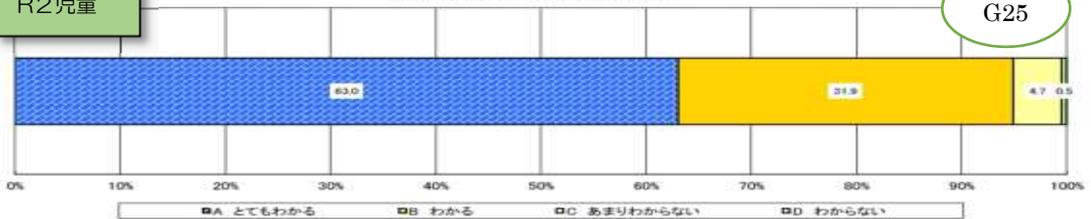
G24

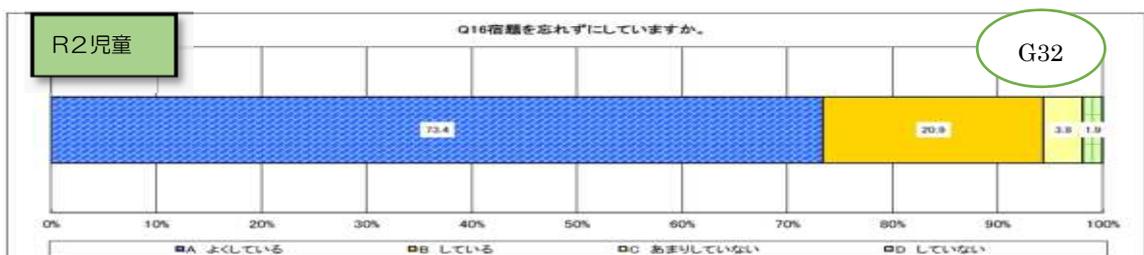
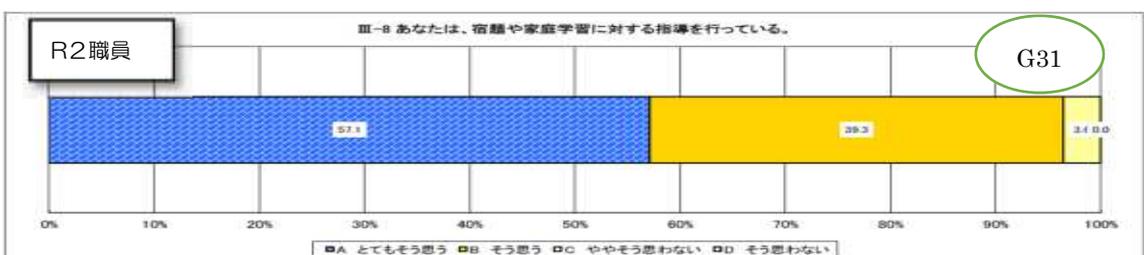
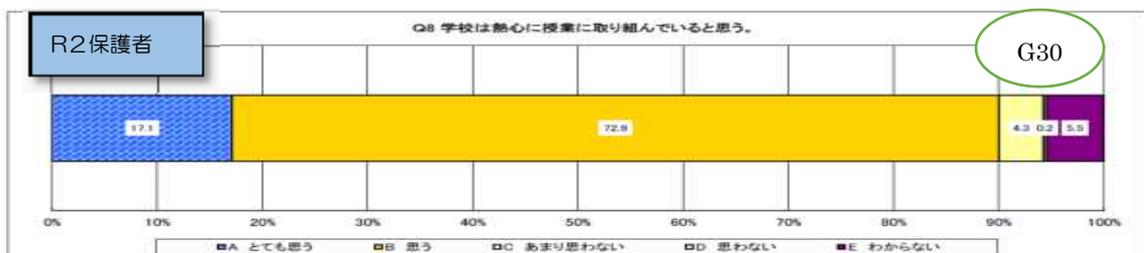
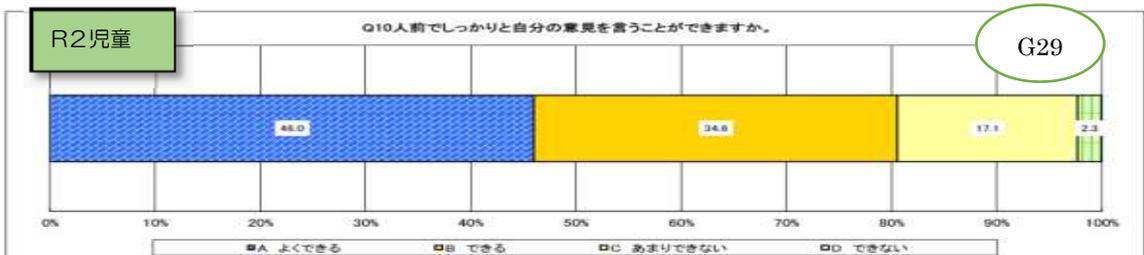
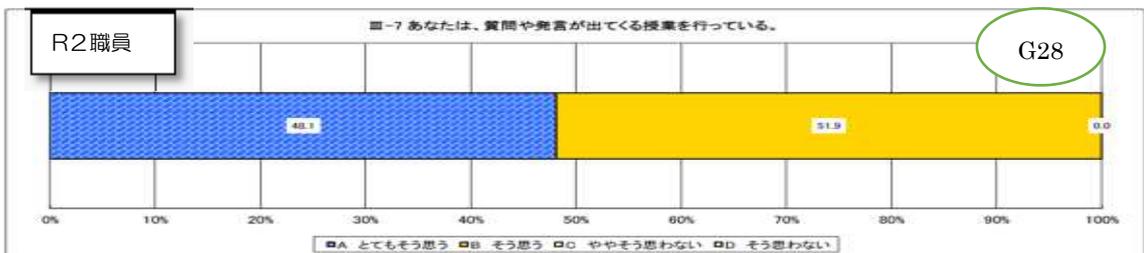
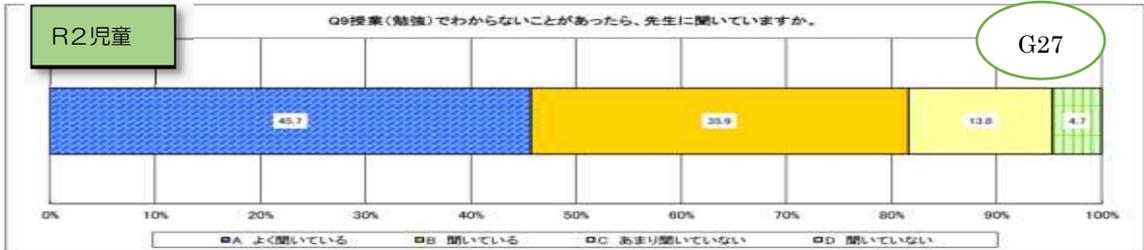
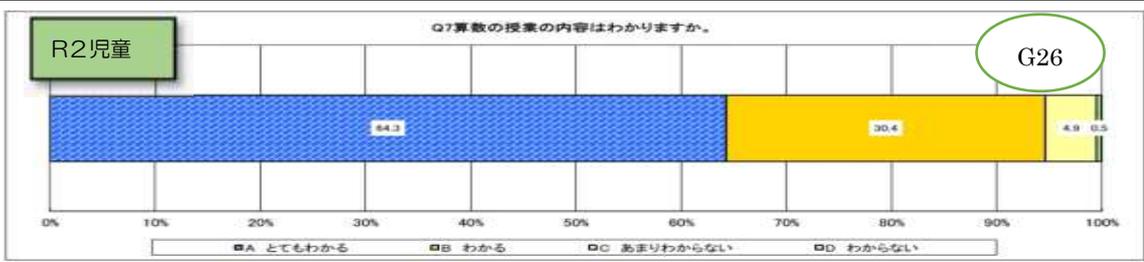


R2児童

Q6国語の授業の内容はわかりますか。

G25





	<div data-bbox="229 165 379 226" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">R2児童</div> <div data-bbox="261 165 1401 412"> <p>Q17月曜日から金曜日までは、学校以外で学年の目標時間の勉強をしていますか。(※5年:60分、6年:70分)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A いつもしている</td> <td>47.7%</td> </tr> <tr> <td>B だいたいしている</td> <td>33.0%</td> </tr> <tr> <td>C あまりしていない</td> <td>11.7%</td> </tr> <tr> <td>D していない</td> <td>2.0%</td> </tr> </tbody> </table> </div>	回答	割合	A いつもしている	47.7%	B だいたいしている	33.0%	C あまりしていない	11.7%	D していない	2.0%
回答	割合										
A いつもしている	47.7%										
B だいたいしている	33.0%										
C あまりしていない	11.7%										
D していない	2.0%										

R2職員

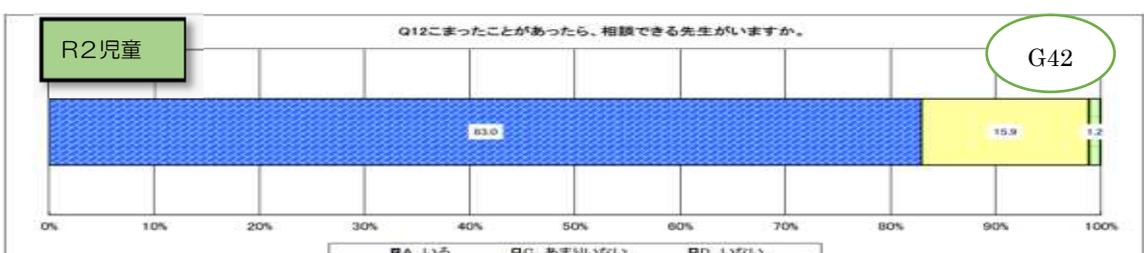
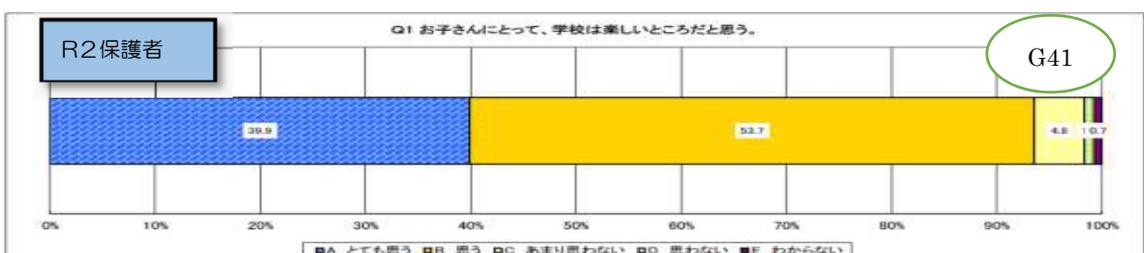
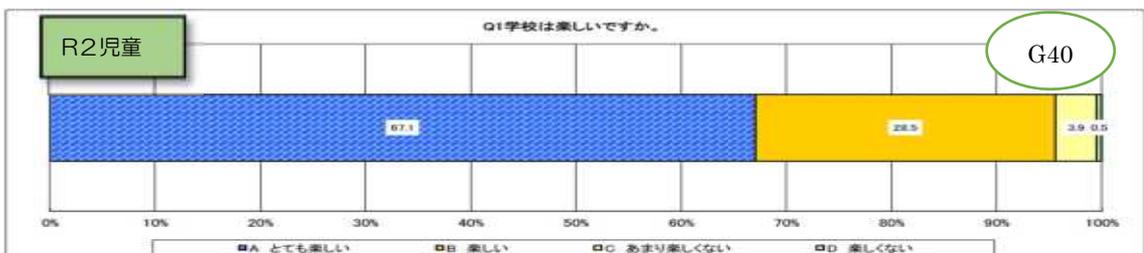
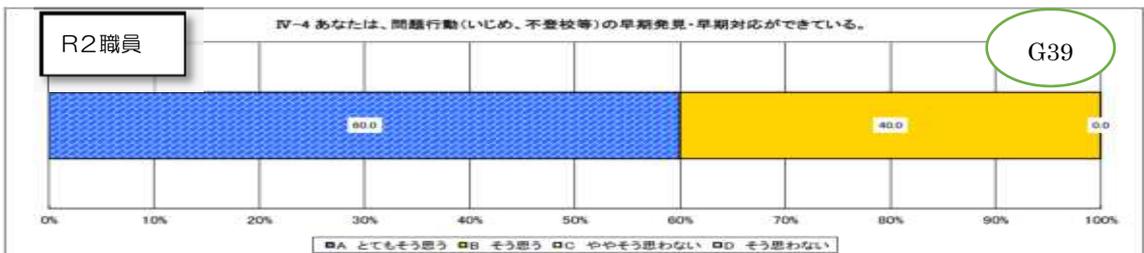
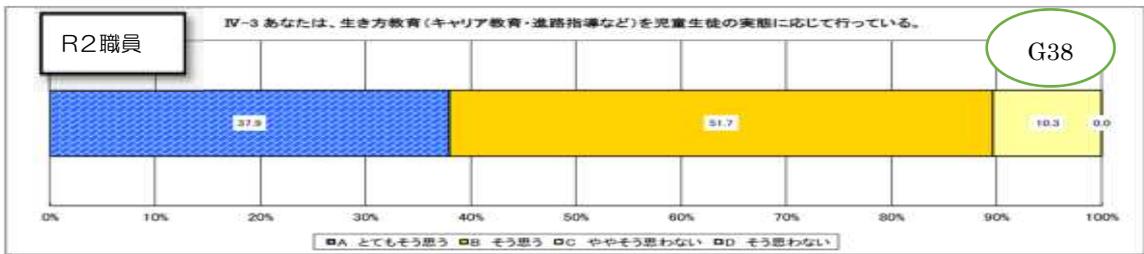
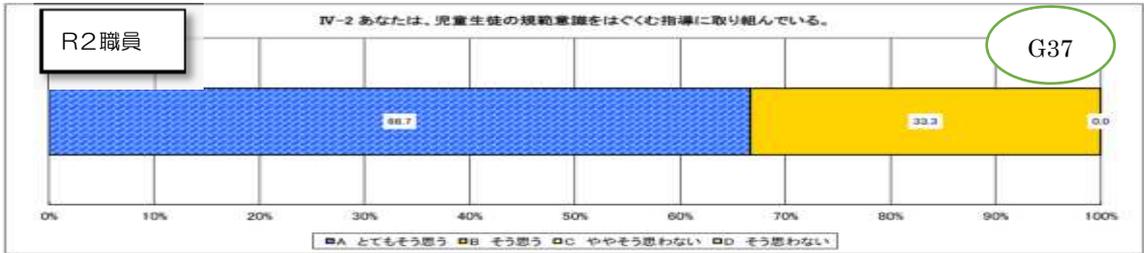
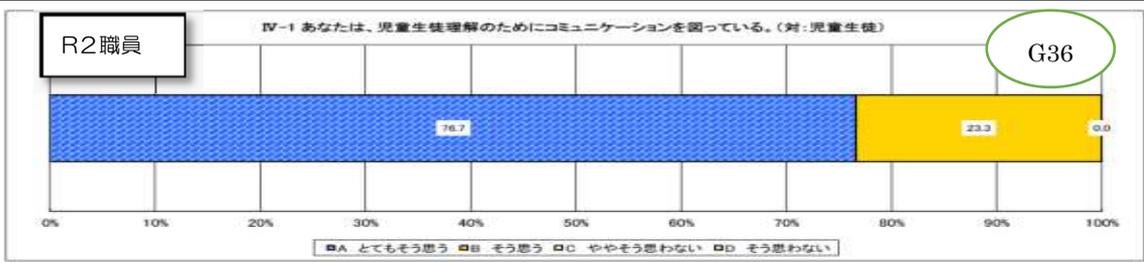
Ⅲ-9 あなたは「きめ細かな指導」により、児童の学習意欲を高めている。

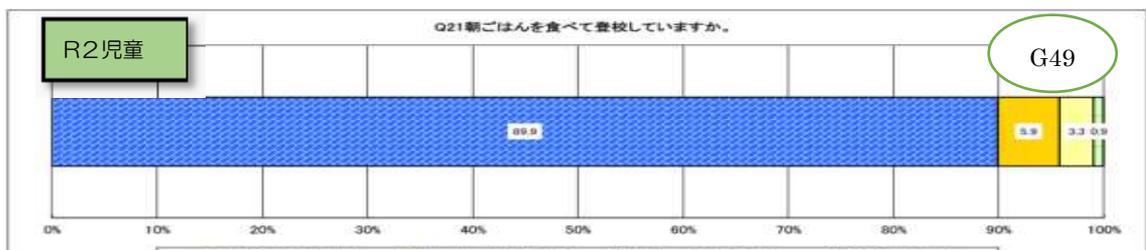
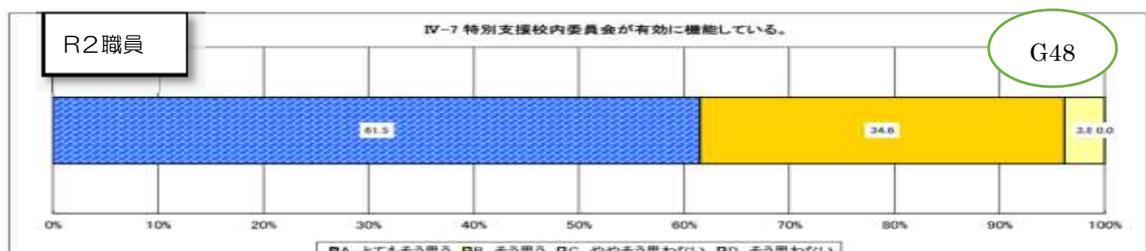
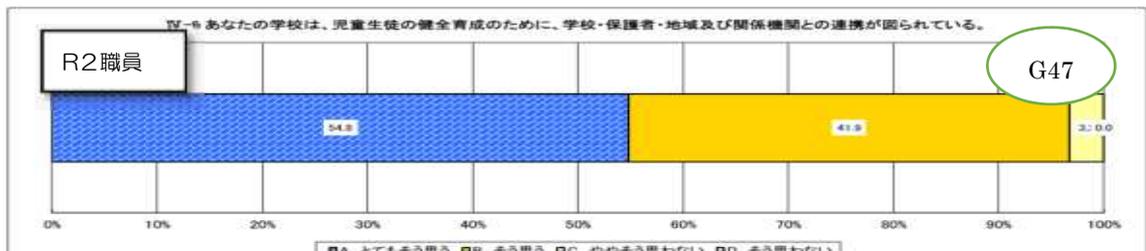
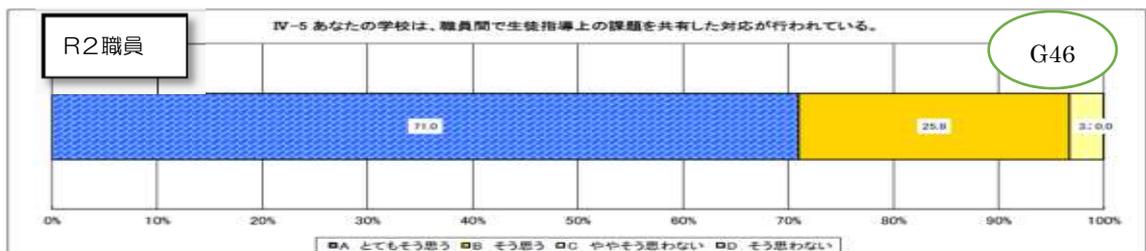
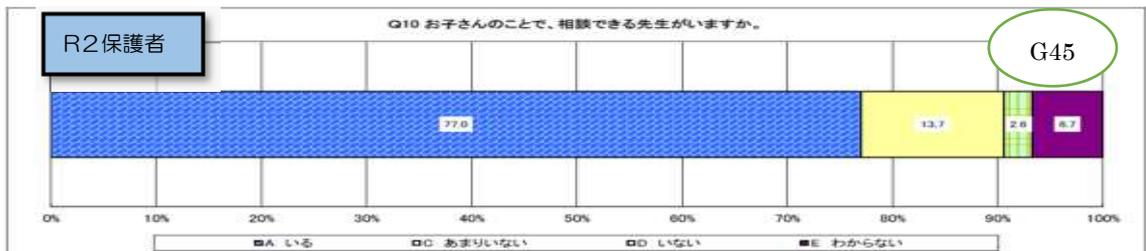
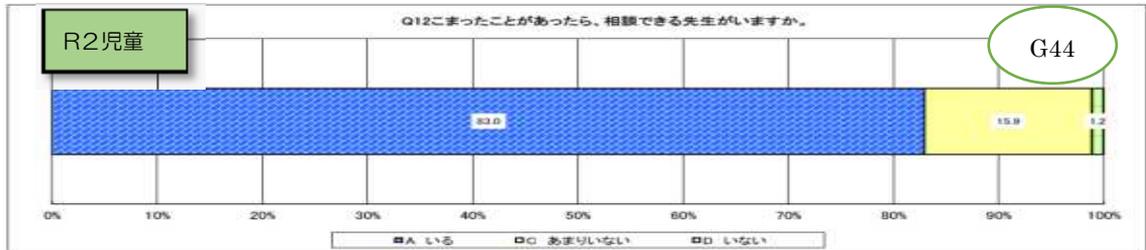
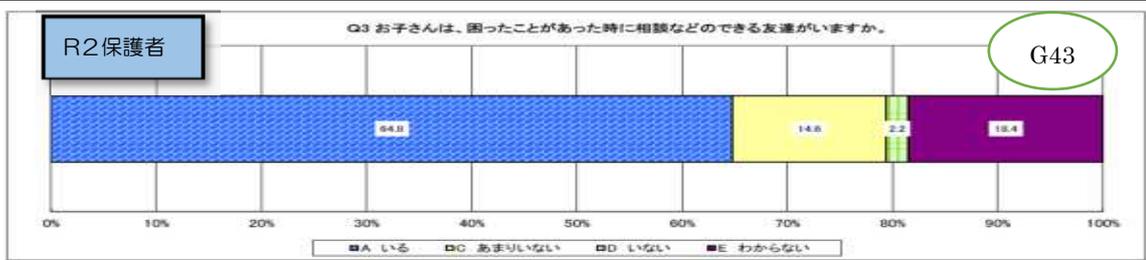
回答	割合
A とてもそう思う	60.0%
B そう思う	40.0%
C ややそう思わない	0.0%
D そう思わない	0.0%

R2職員

Ⅲ-10 あなたは「きめ細かな指導」により、児童に学習内容を身につけさせている。

回答	割合
A とてもそう思う	56.5%
B そう思う	43.5%
C ややそう思わない	0.0%
D そう思わない	0.0%

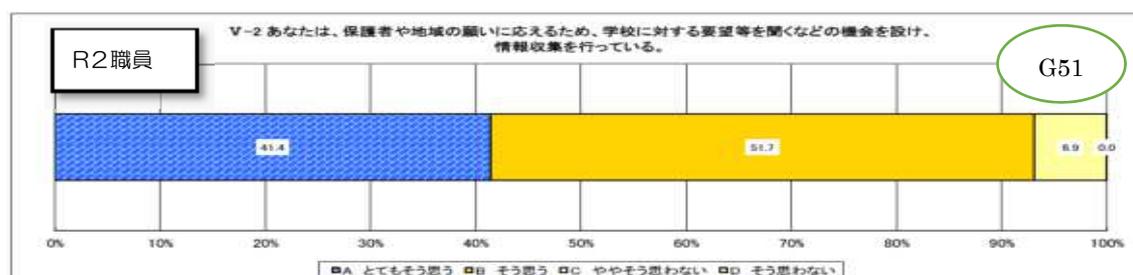


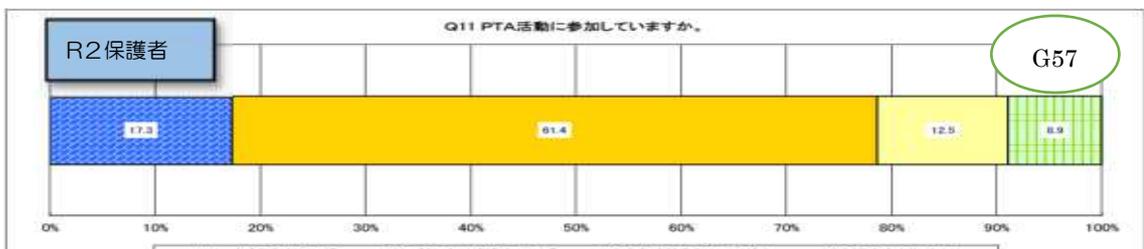
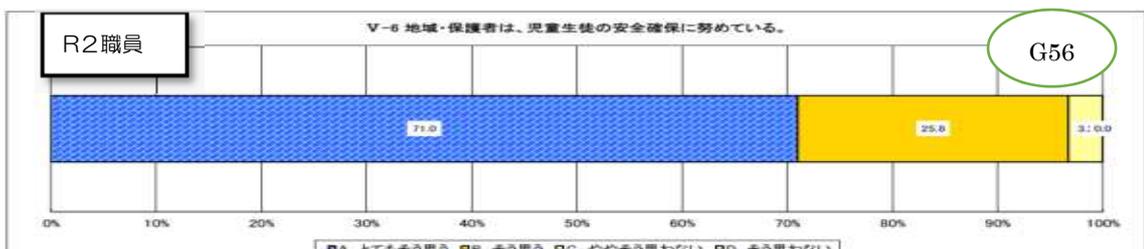
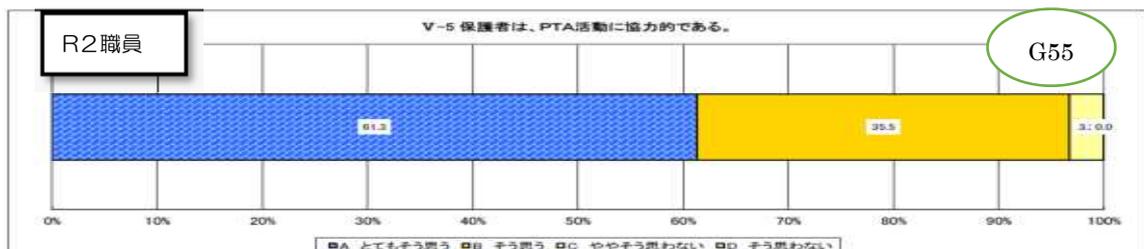
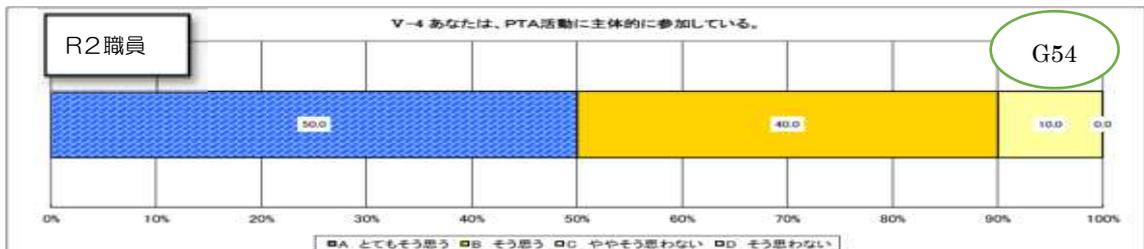
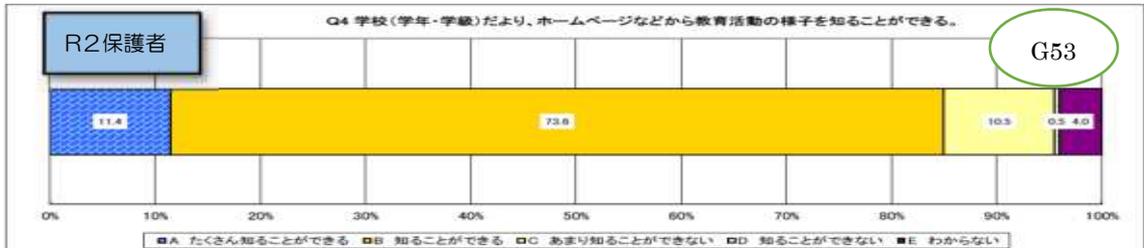
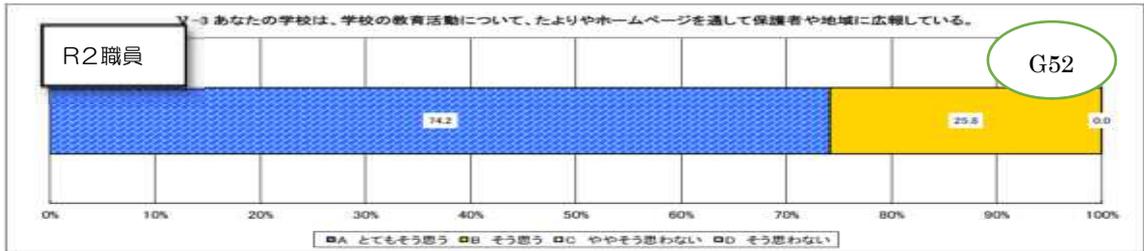


改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・「問題行動の早期発見・対応」については、Q-U調査や児童対象の学校評価、いじめアンケートを有効に活用し、児童一人ひとりの理解や支援を行っていく。 ・児童一人ひとりが主体的に参加し活躍できる「わかる授業づくり」や「信頼される集団づくり」など自己有用感や自己肯定感を育む教育活動の充実を図っていく。 ・担任だけでなく、全職員で全校児童とのふれあいの機会を持つように心がけるとともに、PTA活動を通して保護者との交流を図りながら、児童や保護者から相談しやすい教師とワンチームとして教育目標を具現化する学校を目指す。 ・普段から児童とのコミュニケーションを深め信頼関係を醸成するとともに、児童の変化をきめ細かく見取り、児童の情報交換と指導方針を共有し合うことで、全職員が同じ歩調で対応できるようにする。 ・ユニバーサルデザインをもとに、しっかりと学習に取り組む学習習慣と、きまりを守り、清掃をしっかりするなどの生活習慣、仲間づくり等、当たり前のことを当たり前にできる児童の育成を全職員で取り組んでいく。
-----	--

V 地域との連携について

達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携については、コロナ禍ということもあり、活動自粛の影響からか昨年に比べると全体的に低い数値となった。「地域人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導」については、A肯定率が19ポイント下がり32%となり、昨年度のような学習活動を地域や外部指導者をお願いして実施して学習する機会を設けることができなかったことが原因ともいえる。※（未実施） <ul style="list-style-type: none"> 1年：（昔のあそび集会：保護者、祖父母） 2年：町探検：保護者（命の学習：外部指導者） 3年：校区探検：保護者（自転車教室：交通指導員、保護者 豆腐作り：外部指導者） 4年：（人権学習：地域指導者 認知症学習：地域指導者 職業教育：保護者） 5年：環境学習：外部指導者（水の学習：外部指導者 家庭科実習：保護者） 6年：（救急救命法：外部指導者） ・「地域人材の活用」は各学年で人材を依頼しているが、今年度は5・6年生で新しく導入された「プログラミング学習」などを実施したが、今後も地域人材を発掘・活用するように連携・協働を進めていく。 ・ホームページや学級・学校だよりをはじめ、図書・保健・給食・研究だよりなど各担当からも保護者への情報発信を行い、開かれた学校づくりに努めてきた。しかし、保護者アンケートからもA肯定率は依然として低く、今後も子ども達の活動の様子を伝える新しい情報の更新を随時行っていきたい。 ・PTA活動もコロナ禍ではあったが、今後も無理のない範囲で実施していきたい。
------	---





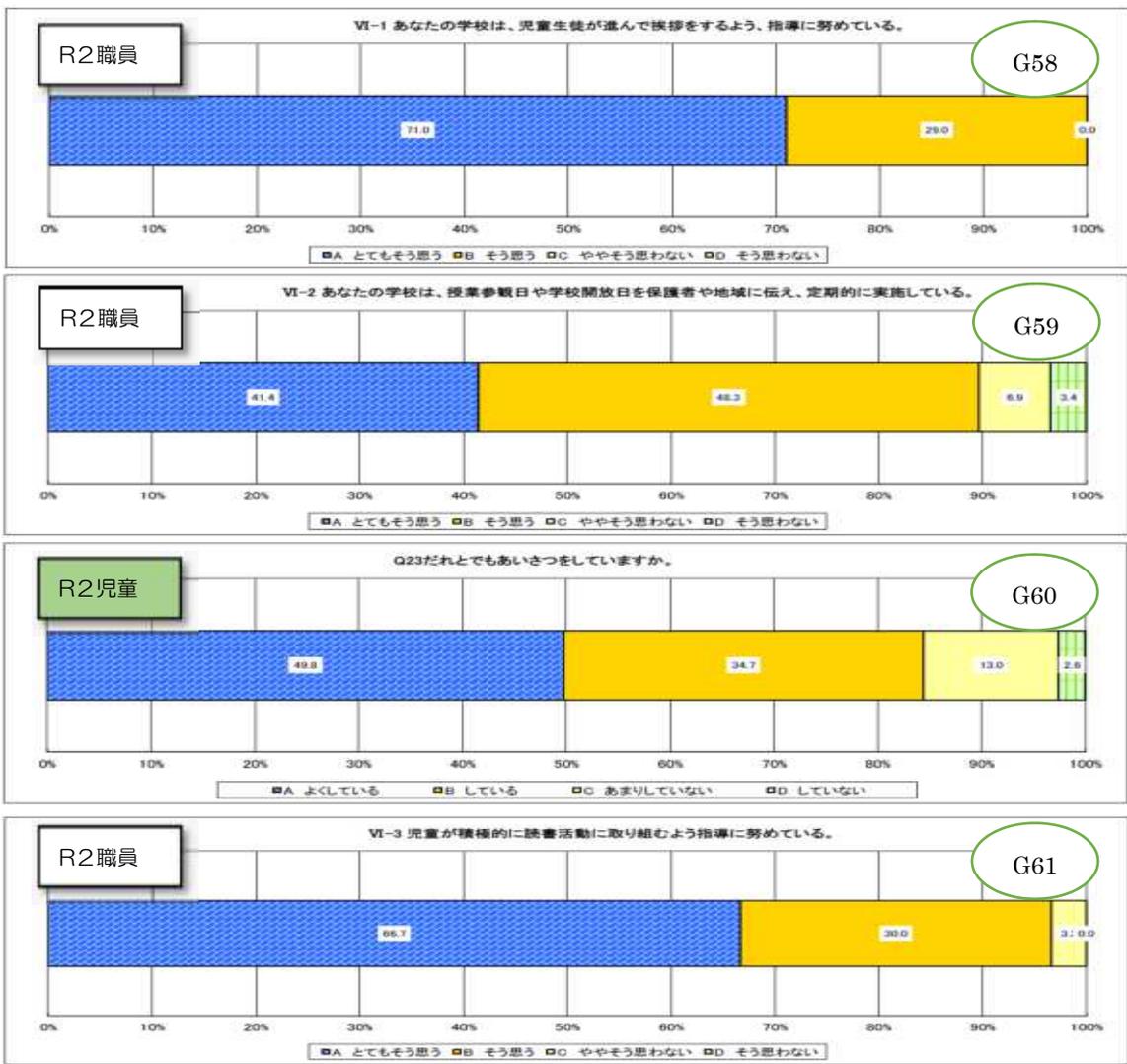
改善策

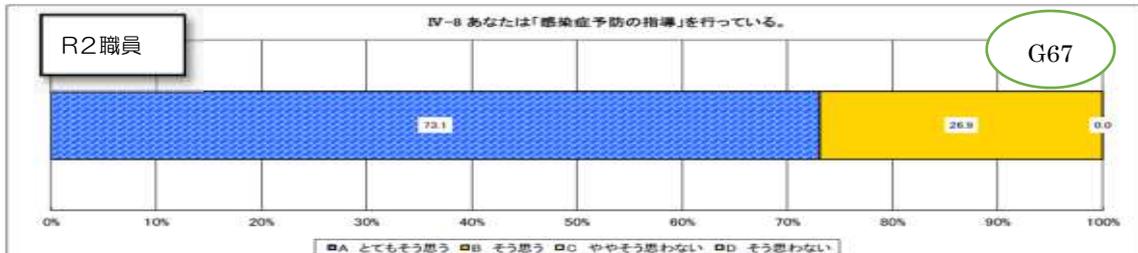
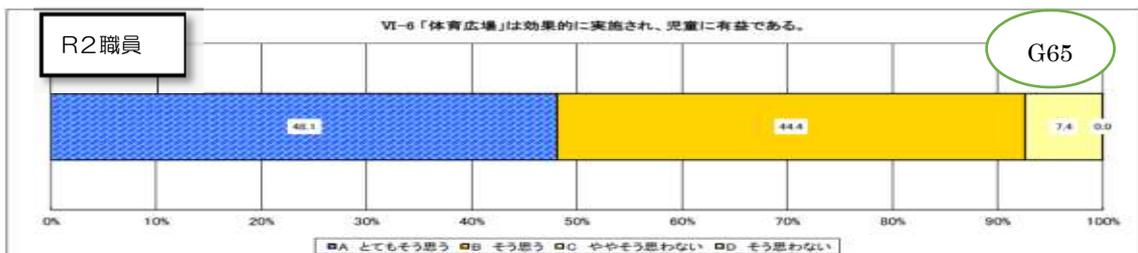
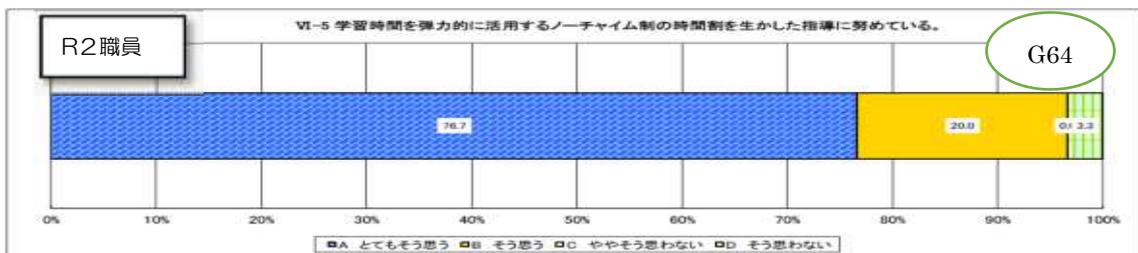
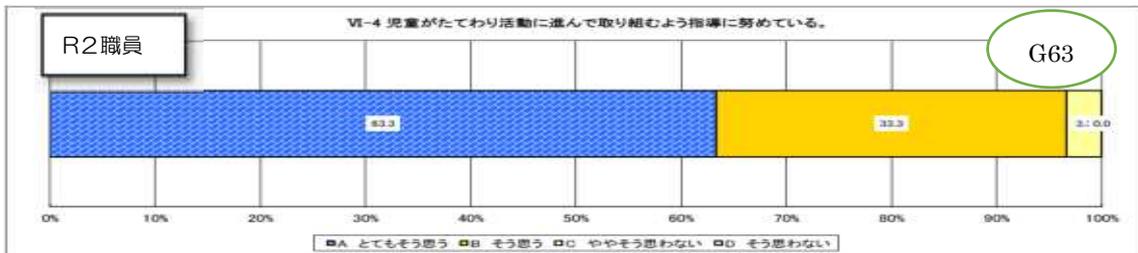
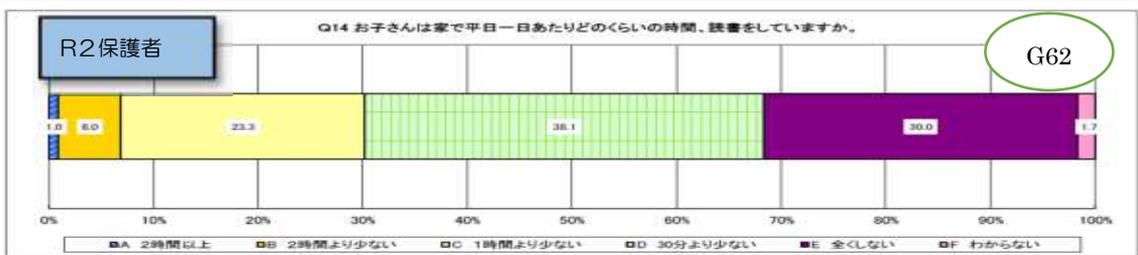
- ・家庭や地域に開かれ、信頼される学校づくりの推進のため、必要な情報を積極的に発信していくとともに、地域教材や人材を教育資源として取り入れ、地域の教育力を生かす教育活動に取り組んでいく。そのために、学習ボランティアや地域人材によるゲストティーチャーを積極的に活用し、地域との連携・協働を推進する組織づくりを今後も進めていく。
- ・ホームページを学校活動紹介の発信源の一つとして地域に周知し、閲覧者数が増えるように今後も更新回数を増やし、内容の充実や広報活動に努めていく。

VI 学校の特色に関して

- ・8項目中2項目がA B肯定率100%であったが、これまで同様に「あいさつ」「読書」「縦割り活動」「音楽広場」「体育広場」などの取組は、本校の教育課程上、特色ある重要な取組であることを表している。
- ・児童会を中心とした「朝のあいさつ運動」を毎日行っていることから、児童が「あいさつをしている」の肯定的評価は85%であった。しかし、登校時の旗振り当番や地域の方から、「あいさつをしない子もいる」という報告が前回と同様にあり、「だれとでも挨拶をしている」の問いに対するA回答は昨年度と同様で50%と低い。
- ・読書活動においては昨年と同様であったが、今年度できなかった「家読」の取組や「外部ボランティアによる読み聞かせ」等は今後も続けていきたい。
- ・「ノーチャイム制」は新教育課程に向け日課時間表を変更したため、児童の自主性、計画性を育てつつ時間に対する意識を高めるため、一部チャイムが鳴るように変更した。
- ・体育広場では、「ラジオ体操」「長縄」に取り組んだ。特に、長縄の取組では、クラスの目標に向かって、体育の時間や休み時間にも取り組む姿が見られ、クラスづくりの上でも成果があった。
- ・新学習指導要領に対応するため、年度途中で「おはようタイム」を廃止し「モジュール学習」を新たに設定し、時数確保等で効果を上げている。
- ・感染症予防の取組では、職員のA B肯定率は100%で、A肯定率は73%と高い数値であった。しかし、保護者の認知度はA肯定率が25%と低く、A B肯定率では90%であった。今後も、命を守る感染症対策は保護者への周知と予防対策を徹底していきたい。

達成状況





	<p>VI-7「モジュール学習」が効果的に機能している。</p> <p>R2職員</p> <p>G69</p> <p>66.7</p> <p>33.3</p> <p>0.0</p> <p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■A とてもそう思う ■B そう思う ■C ややそう思わない ■D そう思わない</p>
<p>改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の特色とは、他と違う何か特別なものというのではなく、児童、学校、地域、保護者の実態を生かした、本校にしかない「強み」である。その「強み」に向かって、限られた時間の中で計画的に取り組むことができるように、諸活動の改善や見直しを図っていく。特に、児童会を中心とした縦割り活動・色別活動・音楽広場・体育広場では、子どもたちが主体的に取り組む態度の育成を図っていく。 ・一部チャイムが鳴るように変更したノーチャイム制だが、それを実施する意味を再度職員が確認し、子ども達に伝えて自律した生活を意識させることが必要である。児童が生活の中での時間を意識し、自ら考え主体的に行動できるように、その活動の意味を常に問い直し、必要だから実施するのだという理由を意識していくことが大切である。
	<p>3 まとめ</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「学校教育目標・学校経営」について、学校教育目標、学校経営方針に基づき、児童や地域の実態にあった具現化した教育実践が行われた。 ○「学校運営」について、「職員会議」や「校内研究」に主体的に取り組み、ワンチームとして相互理解や信頼関係を深めた教育活動にあたる姿がうかがえた。 ○「学習指導」について、学習内容の習得や生活及び生徒指導等において、個の発達段階に応じた指導が行われている。また、おはようタイムにおける読書や基礎的学力を高める取組、TT指導や支援員との連携によるきめ細かな指導等による成果が出ている。 ○「生徒指導」について、職員間の報告・連絡・相談・確認の指導体制の徹底が図られている。保護者との連絡調整・関係機関との連携は着実な成果を上げている。 ○「地域連携」について、ホームページでの発信や、学級・学校だよりを始め、図書・保健・給食・研究だよりなどの発行により適切な情報提供がなされ、保護者や地域に広報活動が行われている。 ○「学校の特色」に関して、あいさつ運動・読書活動・縦割り活動・音楽広場・体育広場等、本校の児童の実態に合った取組が行われている。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ○今後もPDCAサイクルを通した教育実践と評価の具現化を図る。 ○危機管理意識の高揚と、報告・連絡・相談・確認の徹底を図る。 ○情報管理に対する意識をさらに高める。 ○学びの意欲を喚起し、質問や意見が出る授業づくりをさらに推進する。 ○ICT機器の積極的な利用と、主体的・対話的で深い学びを目指した教育実践を進める。 ○カリキュラムマネジメントを意識したスパイラルな授業実践を進めることで、学習内容の一層の定着を図る。 ○英語・プログラミング学習・道徳等、新学習指導要領の実施に向けた工夫を具体化させる。 ○児童の実態に合わせ、様々な生き方教育（キャリア教育）を実践する。 ○保護者や地域に信頼される教育活動を実践する。 ○小中連携については、9年間で子どもたちを育てるという意識を高め、具体的な場面での連携を図っていく。 ○確かな学力の育成のためにはゆとりある授業時数の確保が必要である。竜王北小の子どもたちに必要な力は何かを考え、行事や諸活動の改善や見直しを検討していく。 ○当たり前のことが当たり前でできる児童の育成をめざし、全職員の共通理解のもと子どもたちの指導にあたる。 ○心を育てる指導を行い、心のこもったあいさつが自然にできるような子どもを育てる。